

（2）発震機構（注2）

今回の地震の震央付近（領域b）の発震機構の分布をみると、横ずれ断層型の地震が多く発生している（図2）。今回の地震②（Mw7.5）の発震機構（Global CMTによるCMT解）は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

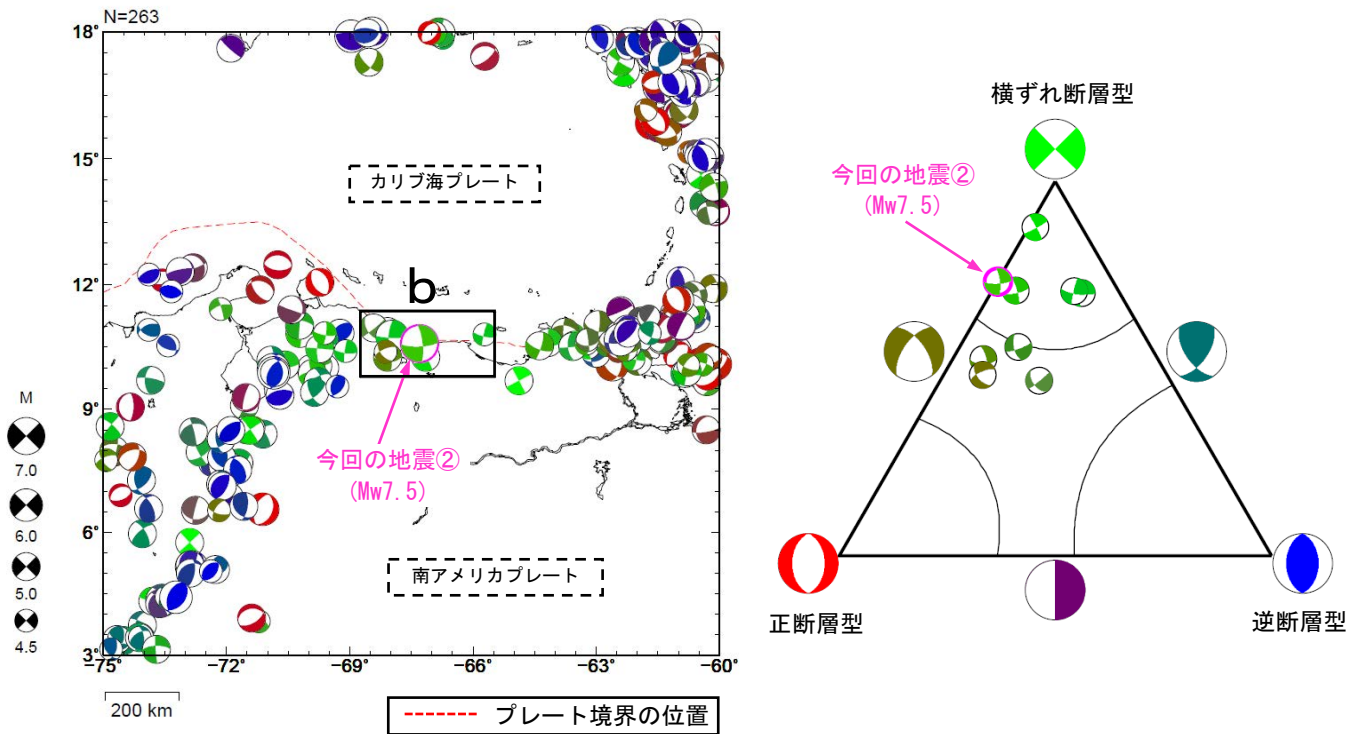


図2 発震機構分布図（左）、領域b内の発震機構の型の分布（右）

（1976年1月1日～2026年6月30日、深さ0～100km、 $M \geq 4.5$ ）

逆断層型の地震を青色、正断層型の地震を赤色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich（2001）による分類）。

ピンク色の丸囲みで表示している地震は今回の地震②（Mw7.5）

（注2）震源要素及び発震機構は、Global CMTによる（2026年7月1日現在）。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置はBird（2003）*1より引用。

*1参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.